

## 令和5年度花巻市大迫地域協議会（第1回）会議録

### 1 会議の日時及び場所

- (1) 日 時 令和5年11月22日（水）午後2時00分～午後3時20分  
 (2) 場 所 大迫総合支所 2階 大会議室

### 2 出席委員（出席12名、欠席3名）

区分	団体及び役職名	氏名	住所	出欠
（1） 公共的 団体 から 推薦 された 者	花巻農業協同組合 女性部大迫支部長	菊 月 美智子	亀ヶ森	○
	花巻市森林組合 大迫事業センター所長	高 橋 純 一	外川目	欠席
	花巻商工会議所 大迫支部副会長	佐々木 行 雄	外川目	欠席
	花巻市社会福祉協議会 大迫支部長	川 村 均	大 迫	○
	花巻市大迫地域区長会 会長	熊 谷 仁 見	大 迫	○
	大迫地区コミュニティ振興会 会長	菊 池 忠 久	大 迫	○
	内川目コミュニティ会議 会長	伊 藤 誠	内川目	○
	外川目地区コミュニティ会議 会長	佐々木 政 行	外川目	欠席
	亀ヶ森地区コミュニティ会議 会長	藤 田 哲 司	亀ヶ森	○
（2）学識経験を有する者		瀬 川 行 夫	大 迫	○
		佐々木 和 宏	大 迫	○
		小 川 富 士	大 迫	○
		菊 池 和 子	大 迫	○
		瀬 川 和 広	大 迫	○
		清 水 正 子	大 迫	○
（3）公募による者		応 募 な し	—	—

花巻市 所属	役職名	氏名	出欠
総合政策部	部長	岩 間 裕 子	○
秘書政策課	課長兼総合計画策定室長	富 澤 秀 和	○
秘書政策課	総合計画策定室次長	村 田 豊 隆	○
秘書政策課	総合計画策定室主査	川 村 芽 衣	○
大迫総合支所	支所長	中 村 陽 一	○
地域振興課	地域振興課長	高 橋 哲 也	○
市民サービス課	市民サービス課長	黒 沼 寿 夫	欠席
地域支援室	地域支援監	藤 原 克 典	欠席
地域振興課	課長補佐（地域づくり担当）	小 松 博 幸	○
地域振興課	課長補佐（産業・建設担当）	吉 田 幸 弘	欠席
市民サービス課	課長補佐	佐々木 明 子	○

・傍聴者 なし

### 3 議 題 (説明事項)

第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン (素案) について (説明)

### 4 議事の概要

(1) 開 会 (地域振興課長)

(2) あいさつ (大迫地域協議会長)

(3) 議事 議長：熊谷仁見会長

①第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン (素案) について (説明)

総合政策部秘書政策課総合計画策定室より資料の説明

(説明：秘書政策課長兼総合計画策定室長 他)

②その他

なし

主な質疑の内容は、次のとおり。

### 5 議事

第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン (素案) について (説明)

(序論、第1章から第3章まで質問なし。)

(熊谷仁見会長)

資料1の素案概要の4ページから5ページまで、資料2の素案の33ページから68ページまでの第4章まちづくりの基本方向についてご質問を受けたいと思います。

ございませんか。

(小川富士委員)

ご苦労さまでございます。よろしく願いいたします。質問させていただきます。

1-2、商工業の振興について38ページでございます。

雇用の場がなかなかなく、若者が市から流出するという現象が結構起きていると伺いましたけれども、やはり雇用の場として重要である企業誘致についてお伺いいたします。過去3年あるいは5年において、企業誘致がなされた件数、あるいはこういった業種の企業がこちらにいらしたのか、そして雇用された人数についてお伺いしたいと思います。

(富澤秀和総合計画策定室長)

大変申し訳ございません。企業数、誘致企業数などにつきましては本日持ち合わせておりませんので、回答致しかねます。

(岩間裕子総合政策部長)

詳細については今申し上げたとおり数値はないのですが、傾向といたしましては市内で稼働中の企業において例えば工場を拡張するなどの動きが相当数ございます。

また、製造業、特に半導体に絡んでの製造業それから流通業については、新たな立地もあるというような状況とっております。

(小川富士委員)

やはり若者の雇用の場というものについては、全市を挙げて確保していかなければならないし、企業誘致に力を入れていただきたいというのはもちろんですけれども、市は、誘致企業に対してどのような働きかけを行うのか、あるいは企業からそういう情報をいただくのか、その点についてお知らせ願いたいと思います。

(富澤秀和総合計画策定室長)

これまでの企業誘致の活動の例を申し上げますと、企業から当然引き合いというものもございますし、市の方から地元企業とのお取引がある企業様を訪問し、あるいは、首都圏等にある親会社を訪問して情報交換を行ったりしてきておりますが、なかなか結果に現れてきていないというのも事実でございます。現状で申し上げますと、花南産業団地の整備を進めておりますが、その産業団地を紹介しております。

あと、企業誘致とは別、地元企業への就職ということを考えますと、これまで地元でこういった企業があるのかということが、なかなか学生に伝わっていなかったということもございまして、それをマッチングさせるため、市のホームページに「おしごとNAV I 花巻」という市内企業の情報を発信できるページを作って昨年度から取り組み始めております。

(小川富士委員)

例えばですね。大都市のようにはいかないまでも、その企業とコネクションのある方とか、そういう方々からのつながりから広がってくるという場合も多々あると思います。そういうものはあまりお持ちでないのでしょうか。

(富澤秀和総合計画策定室長)

現在花巻市において、総合企画アドバイザーという方を1人お願いしております。この方は、地元ではない銀行出身の方ですが、この方の紹介で、例えば、花巻市の物産品の販路拡大や、あとは企業情報を花巻市に頂いているとかということで、そういった活動をされている方を年間通してお願いしているということもございます。

(小川富士委員)

なるべく若者が仕事を求めて市外へ流出しないように、市としても誘致企業にもっと働きかけるなどしていただけたら良いと思います。ありがとうございました。

(熊谷仁見会長)

ありがとうございます。ただいまは、企業誘致に関してのご質問でございました。

その他にご質問を受けたいと思いますが、ございませんか。

(菊池忠久委員)

49 ページ、福祉の充実中段に、「老人クラブ等の高齢者の自主組織を支援することにより高齢者の生きがいづくりを推進するほか、地域における見守りの要となる民生委員・児童委員の担い手を確保するため、ICTを活用した業務の負担軽減に取り組みます。」とありまして、「ICT」という単語が後段の方にもかなり出てきますけれども、民生委員とか担い手を確保するため、ICTを具体的にどのように活用しようとしているのか、それから「業務の軽減、負担軽減」とは、民生委員の経費負担なのか、事務方の負担なのか、どのようなイメージで捉えればよろしいでしょうか。

(岩間裕子総合政策部長)

お答えいたします。最初のICTを活用した業務の負担軽減の取り組みですけれども、現時点において検討している一例といたしましては、地域における民生委員・児童委員の見守り活動において、例えば、Aさんという方のご自宅を訪問したときAさんが在宅ではなかった場合、Aさんの行方をなかなか把握できずにあちこちにご連絡をして、所在を確かめるというようなこともあり、これはなかなか時間もかかるし大変だということについて、担当課では民生委員・児童委員の方からお話をいただいているようでございます。

これを解決するために、例えばAさんがご利用になっておられる施設や病院などに民生委員と連絡が取れるタブレットのようなものを配布いたしまして、それにより、今この方がここにいらっしゃいますよという情報を民生委員に送っていただくなどして共

有し、そのことによりまして、例えば「本日はご自宅の方に伺ってもAさんは不在だが、この施設で元気に活動されている」ということを民生委員が把握できるというような仕組みを検討するようなことが考えられます。

(富澤秀和総合計画策定室長)

タブレットを使う事例ですとか、そういったものにつきましては、現状において民生委員さんのほか、我々職員や、あとは社会福祉協議会の職員など関わる方々が使いこなさなければならないということもあります。このことについて具体的に何を行うのかということになると、現在検討中の長期ビジョンに基づくアクションプランとして、具体的にどういったところから取り組んでいくかということを決めていくこととなります。長期ビジョンの中では具体的な内容まで読み取れないということはあるかもしれませんが、現状とするとこういうような書き方になってございます。

(熊谷仁見会長)

よろしいですか。

その他ご質問どうぞ。

(小川富士委員)

度々恐れ入ります。

観光の振興についてです。

盛岡は観光地として世界に名を馳せております。それはなぜなのかについていろいろ議論されるところでありますが、もちろん風光明媚で居心地の良い街であるという以前に、その街の醸し出す雰囲気、城下町の人々の温かさが一番だと思います。どこにでもそういう城下町はありますけれども、やはり人が醸し出す雰囲気というのは、観光客にとって行ってみたい居心地の良い観光地、また行ってみたい場所、そういうものに値するのではないかなと思います。

大都市はオーバーツーリズムで、やっぱり政府の方も地方に地方にと観光客、外国人観光客も促していらっしゃるようですので、花巻もやはり観光資源はたくさんあるのですよね。数えきれないくらい。色んな面において、それを十分に生かされていないと思います。ですから、花巻の観光をもっと盛んにするには、その観光資源、素晴らしいものがあってもそれを生かしきれていないのではないかと思います。

あとは観光に携わる旅館様とかそういう人じゃなくて、花巻に誇りを持ってそれをPRする、いわばまず観光大使みたいな方ですね。そういう方をどんどん増やして、もっとこれからやっぱり台湾などからもいっぱいお客さんいらっしゃるかもしれないので、そういうところを宣伝、広報されてみたらいかがでしょうか。

(富澤秀和総合計画策定室長)

ありがとうございます。

情報発信の大切さとか重要さといいますのは、これまでの関係団体との意見交換とか、あとは市民ワークショップの若者部門でも出されています。市の取り組んでいることがなかなか見えないですとか、そういった情報の発信をもう少し受け手側に届くように、手法を考えてほしいということもございましたので、そちらの方につきましても、まずは長期ビジョンにはこのような形で掲載させていただきましても、具体的にはそのアクションプランの方で取り組む内容などについて位置付けてまいりたいと思います。

(小川富士委員)

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

(熊谷仁見会長)

質問を受け付けたいと思います。

はい、どうぞ。

(清水正子委員)

すいません清水と申します。資料2の49ページの「福祉の充実」で、中段に「老人クラブ等」とありますが高齢者の方々は、この「老人」という言葉が使われることに抵抗があるようです。

先日、花巻の方々とお話した時にも、「〇〇老人」という言葉を取り除いてくれないかという意見を述べておられました。こういう文章の中で本当に細かいたった一言でも、この「老人」という言葉を削って「高齢者」ぐらいの表現にしていただけると何となく柔らかい表現になるのではないのでしょうか。

(岩間裕子総合政策部長)

ありがとうございます。

計画書の中では、基本的に「高齢者」等の言葉遣いになっておりますけれども、「老人クラブ」につきましては、固有名詞でございますので、これを違う名称で書くということはなかなか難しいかなと思います。団体さんの方で、「老人」という言葉を使わないというようにして新しい名称をつけていただくことは全く構わないと思いますので、例えば、「老人」という言葉を使って欲しくないとする意見があるというようなことを福祉担当課にお伝えして、場合によっては名称を変えるということも一つの解決策になるのではないかと思います。ありがとうございます。

(熊谷仁見会長)

ありがとうございます。

また質問を受けたいと思います。はい、どうぞ。

(瀬川行夫委員)

早池峰学童クラブに携わっております瀬川といたします。

資料2の53ページに「放課後児童支援員の確保」とあり、大変ありがたいなと思っております。

数年前には支援員の確保に大変苦慮しました。現在では、支援員が足りないというのではなくて、ちょっとお手伝いをお願いしたいなということで、シルバー人材センターにお声がけをして支援員としてお願いできないかなという相談をしました。

ところが、シルバー人材センターにお願いするには、現在支援員が稼働している給料では足りないということがわかり、支払いが難しいということで雇用を断念したことがあります。

支援員が順調に確保できれば良いのですが、ハローワーク等に求人を出しても、1日3時間、4時間だけでいいですよと求人に応じる方はほとんどいません。従いまして、現在もボランティアに近いような支援員さん、補助員さんのお志で持っているというふうな現状がございます。従いまして、国の補助の関係もありますし、市の財政のこともありますが、補助金の方が少しでもシルバーさんよりも上になるような金額であれば、少しは成り手が確保できるのかなという気がしております。

現在の早池峰学童クラブの支援員は十分なのですが、市内の中心部でもう確保できないということで、こども課の方々にご苦労をおかけしているという学童もございますので、そういった放課後児童支援員の確保という謳い文句はありがたいのですが、ぜひ実行できるようにお願いしたいということです。

質問ではございません。情報とお願いです。

(熊谷仁見会長)

ありがとうございます。

回答できますか。はい、どうぞ。

(村田豊隆総合計画策定室次長)

はい、ありがとうございます。

まず、支援員の確保でございますけれども、早池峰学童クラブは現在足りないという話ではないとお聞きしましたが、市内全域を見渡しますと、やはり支援員が不足しているという声を大分伺っておりまして、支援員の確保という取組の一つの手法といたしまして教育委員会では、保育園の保育士確保と併せまして学童クラブの支援員確保に向けて、「保育のおしごとナビ」というホームページを立ち上げ、それぞれの学童クラブの紹介あるいは支援員の募集について市の方からも情報発信するなどしています。これらのことも含め、なんとか支援員の採用に繋げていきたいという取組を実施しているところでございまして、このことは継続して進めていきたいと考えております。

それから、支援員の処遇面での確保の難しさというお話をいただいたところでございますけれども、学童クラブの運営費に関しましては、国の補助をもとにそれぞれの学童クラブに市から運営費をお支払いしてございます。ここ何年かにつきましては、支援員の処遇改善というところで、国の補助により給与面でいくらか増加しているところでございますけれども、やはりまだまだ処遇が低いというお話も伺っております。これらにつきましては、国への要望のほか、補助事業の状況を注視しながら、少しでも支援員の処遇面を改善できるような形で取り組んでいけたら良いと思っております。このことは、保育園の保育士の方と合わせて取組を進めていくものと考えています。

(熊谷仁見会長)

ありがとうございます。

その他ございませんか。なければ、次に移りたいと思います。

資料1、素案概要の6ページから8ページまで、資料2、素案の69ページから76ページまでの第5章、重点施策推進プロジェクトについて、ご質問等ありませんか。

はい、どうぞ。

(菊池忠久委員)

菊池と申します。

今回の長期ビジョン、これは人口減少対策としてこの重点施策プロジェクトの二つのプロジェクト、子ども・子育て応援、花巻で暮らそうというこのプロジェクトを加えたことは、花巻として人口減少対策に積極的に取り組むという姿勢が見られ、非常に高く評価したいと思っております。

全体を読んで感じたことは、非常に専門用語や外来語が多く感じられて、末尾には解説表がありますが、読んでいく中で用語の解説を参考しながら長期ビジョンを理解していく必要があります、非常に時間がかかりました。

中には日本語で表現した方がむしろすんなり受け入れられるのではないかと感じるものがありました。具体的な文言は省きますけれども、一般的な市民は、この計画書を見ることはほとんどないと思います。目に触れることはないと思います。

ただ、市職員の皆さんはこの長期ビジョンをもとに事業を進めるわけでありまして、議員の皆さんもこの長期ビジョンをもとに、進捗状況等をチェックしていただろうと思えます。そうであるとするならば、できるだけ共有できるような情報で表現した方が良いのではないかと感じました。

それで2点ほど質問いたします。

先ほどの質問でもICTという言葉が出ましたが、73ページですが、ここにも二つ

ほどICTの活用というものが出てきます。一番上の部分の妊娠・出産・子育て部分それから「⑤子どもの学習支援」のプロジェクトの内容には「ICTを活用」と出てきます。「⑤子どもの学習支援」の方は大体イメージができますが、上段の「①妊娠・出産・子育てに関する相談・支援体制の充実」のプロジェクトの内容において妊産婦や保護者が気軽に育ての悩みや不安などを相談できる窓口機能についてICTの活用ということで、機能の充実を図ったICTという言葉が出てくるのですが、このイメージがいまいちわかりません。

市民の方が相談に来て、そして窓口として誰が対応して、ICTをどういうふうに使って機能充実していくのかということに全くイメージが湧きません。

この辺ですね、もう少しご説明いただきたいなと思います。

もう一つは、74 ページですが、やはりこれも重点政策の中で、花巻で暮らそうプロジェクトの中段の課題と展望において「本市における令和元年、2019 年から継続している転入者数が転出者数を上回る社会増」とあります。これは、子どもの世代と親の世代の転入が多い傾向である理由として、これは本市が取り組む子育て支援のほか、移住定住支援策が効果を上げているからそのために増えていると記載されています。

それを示すグラフが82 ページにあり、確かにこのグラフでは転入者数を示す青線が平成29年から上昇傾向にあります。2019年、令和5年にはピークになってまた下がっている。だから2017年の段階で、子育て支援策、移住策として花巻市が何か特別なことをやったのかな。そのために上がったんだと私は捉えたんですよ。

でも、2019年段階でピークに達したら今度減少になった。何で減少になったのか、この辺がちょっとわからないので、子育て世帯を支援する施策と、移住に伴う施策にどんなものがあったのかお教えいただければ。また2019年をピークに、なぜ右下がりになったかと。この辺を教えていただければいいと思います。よろしく願いいたします。

(村田豊隆総合計画策定室次長)

まず1点目の子ども・子育て応援プロジェクトについてです。ただいまご指摘いただいた73ページの①番、妊娠・出産・子育てに関する相談・支援体制の充実での「ICT活用」ということでございますが、様々なケースやパターンが考えられますが、一つは相談するためには予約することが前段の手続きとしてあるわけですが、そういった相談の予約などについて、ICTを活用してオンラインでできるようにするというものも考えられますし、また相談そのものについて、これも実際に職員と対面で行うほかに、ICTを活用してネット環境を使つての相談ができるようにするなど、実際に役所とか保健センターなどに行かなくても相談ができるような仕組みを作ることによって、妊産婦の方や保護者の方が負担を少なくできるようなことをイメージして、ICT活用と述べております。

このほかにも、まだまだ展開できる方法というのはあると思いますけども、まずはそのようなことが考えられるところでございます。

それから、人口の話ですが、先ほどお話いただいた82ページの転入と転出を表すグラフで、令和元年度がピークでその後少しずつ減少傾向となっている理由でございますけれども、これに関しましては、まずは、転出者数を示すオレンジのグラフよりも転入者数を表す青のグラフの方が上回っているところで、この社会増が令和元年、2019年から4年連続で続いているということ、グラフ上ピークとなってる令和元年においては、ちょうどこの頃に北上市でキオクシアの工場が稼働したということもあって、そこで働く方々が花巻に転入される方が多かつたのではないかと捉えているところでございますが、その後も社会増が継続しておりますので、その継続している要因は、やはり花巻

市で実施している子育ての施策、あるいは移住定住の部分に関しての取り組みを充実させてきておりました、こちらの方も県内でも大分充実した取り組みをしているという評価をいただいておりますので、子育てあるいは移住定住に関する取組を進めてきたというところが、この社会増というところに繋がってきているのではないかと捉えてございます。子育て世代と言われているような年代の層の転入者が多いというところからも、そのような分析をしているところでございます。

(富澤秀和総合計画策定室長)

社会増のお話ですけども、令和元年については、隣の北上のキオクシアの新しい工場の稼働によってこのグラフでは読み取れませんが、都道府県別では三重県から100名ほど入ってきているということもありましたので、キオクシアの工場稼働によってというのが要因であろうと考えられたということでございます。令和元年から4年連続して、この社会増が多いということにつきましては、年齢構成別に、14歳以下までのお子さんと30代ないしは40代の方々の転入と転出を比べると、転入の方が上回るというような構成であります。お子さんだけの転入というのは考えづらく、これは子育て世帯での転入と考えられると。

その要因として、市の取り組みが一つの成果となっているのではなかろうかという分析でございます。

(菊池忠久委員)

年代とかそういうものを推計したというのは分かります。

ただ、72ページで明らかに花巻の子育て支援策と謳っているわけですから、何か特別な支援施策があったために、隣町近隣の市町村よりは支援策が大きいから入ってきたとか、まだ県外の方ですね、そういう部分を捉えてしまいます。

今話を聞くと、北上市の漁夫の利じゃないですけど、北上市の繁栄のおこぼれとしてきたという捉え方の話で聞こえてしまいます。そうではなくて、花巻市単独で行った支援策が予想と違っていたという部分があるのであれば、それを知りたかったのです。

データを並べて多分そうではないかという説明ではなくて、明らかに72ページには「支援策によって増えている」としているわけですから、そこは確たる理由付けをしていかないといけないのではないかと思います。

(岩間裕子総合政策部長)

花巻市が行政として近隣他市に比べて強力で押し進めてきたというのが、まず保育料の軽減、それから医療費の軽減、それから住宅の取得に対する補助でございます。これについて花巻市は、県内でも先発で行ってきていることから、この効果はあるものと思います。

ただ、これはイタチごっこの様相を呈するところがありまして、花巻市で取り組んで、成果が出てくるとそれを近隣が真似をして追いついてくるというようなことで、そこは追いかけっこの状態になりますけれども、花巻市としては更なる手を打ちながら近隣他市に先行するような形での支援を行ってきており、それが評価されているものと捉えているということでございます。

(菊池忠久委員)

ただ今の説明でグラフとも合うような形で理解いたしました。ありがとうございます。

(熊谷仁見会長)

よろしいですか。その他質問を受けたいと思います。

なければ、次に移りたいと思います。最後に素案全体についての質問等を受け付けたいと思います。ございませんか。

なければ、第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンについて終了したいと思いますが、いかがでしょうか？はい、ありがとうございます。

それでは、当局にはこれらの御意見を参考として進めていただきたいと思います。

以上で、「第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン（素案）について」を終わります。これをもって本日の議事案件は以上となります。ありがとうございました。

#### 4 その他

（高橋哲也地域振興課長）

ありがとうございます。議事については以上のことでございます。それでは進めます。

次第の4、その他であります。案件がある方はいらっしゃいますでしょうか？

小川さんどうぞ。

（小川富士委員）

これを申し上げていいのかどうか、人選の問題でございます。

花巻市総合計画審議会委員の名簿が資料2の88ページに載っております。

20名様のお名前が載ってまして、その中に女性がたった1割なんです。やはり男女共同参画を考えますと最低でも2割女性を入れていただきたいと思います。市内でも活躍していらっしゃる方、企業を起こしていらっしゃる方が結構いらっしゃると思いますし、あとは若者の立場、これから社会を築いていく若者たちもどんどん入れていただいしてほしいと思います。

私、決して現行のものが旧態依然とは申しません。でもそういう人選をやっぱりこれから変えていって、市の構想とかいろんなところに携わって貴重なご意見とかをいただく機会をお作りになったらいかがでしょうかと申し上げたいと思います。

多々余計なこと、人選に対しては余計なことかと思われかもしれませんが、私の希望でございますよろしく願いいたします。

（高橋哲也地域振興課長）

ご要望と受け止めまして、会議を進めます。それではその他、何かございますか。

はい、事務局ありません。それでは、その他を終わります。

以上をもちまして令和5年度第1回花巻市大迫地域協議会を閉会いたします。

委員の皆様、どうもありがとうございました。